

R-18

Adult only

蝕
血
の

墮
ち
手





深夜
御崎市



封絶内
同





悠二
こっちに徒がいる

えっ?
あっ?! 本当だ!

新手でありますか

争う気はないようだ
捕捉した途端逃走した

…なんですって?

やめとけやめとけ!
今のお前にや荷が重いぜ
我が勤勉なる重体者
マージョリード

— 気配が薄い
強い徒じゃない

…見落として
ありますか?

注意散漫

す、すいません!

ここで何をして
いたのか気になる

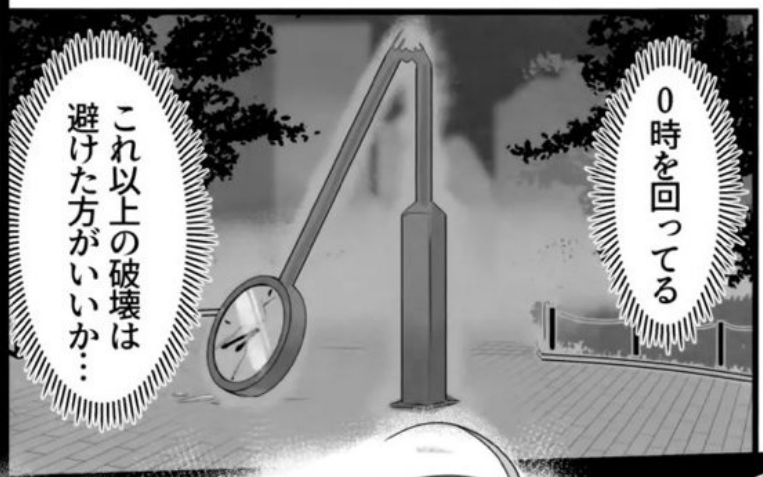
追うわ

…こちらは
手負いであります
深追いはせず

うん

ごめんシヤナ!
僕も皆の手当てを手伝ったら
すぐそっちに行く!

その前に終わるわ





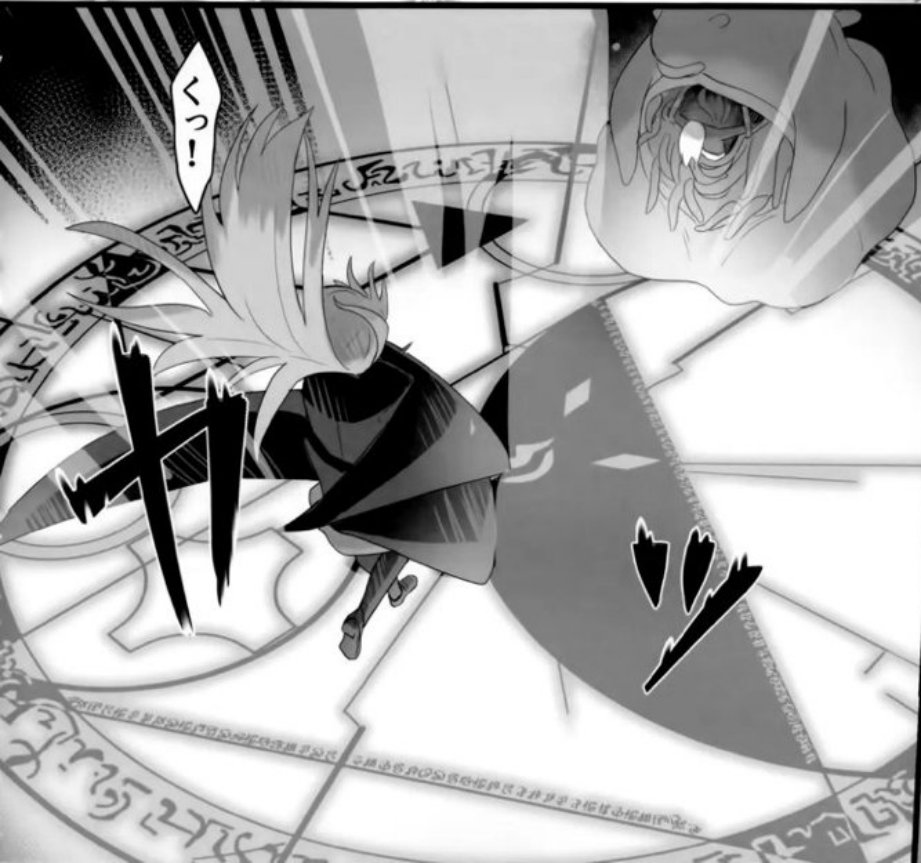
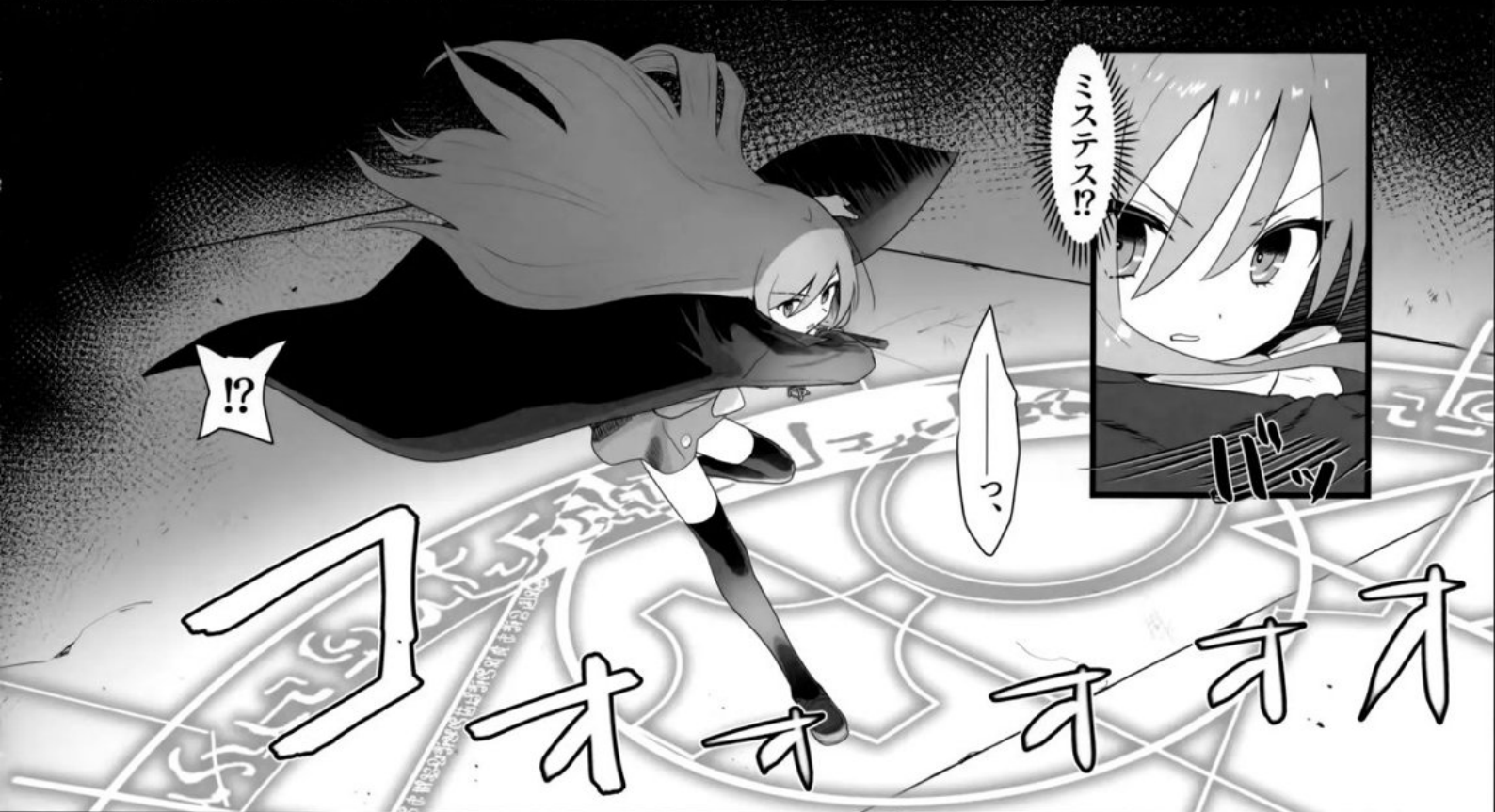
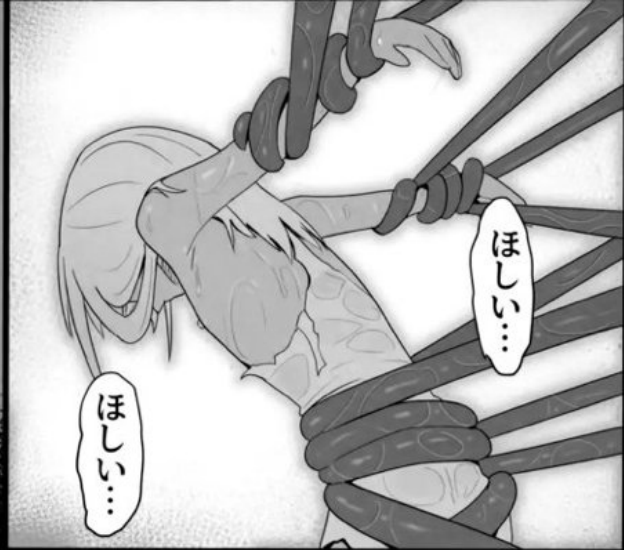
お前
あそこで
何をしていた？

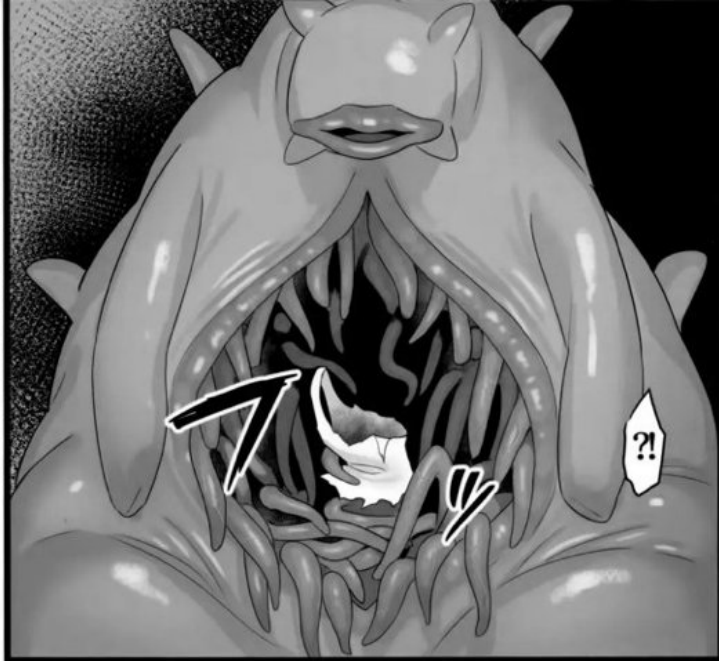
止まれ！













ズ



うじ

え

ゆる



ッ

ワ



どうした!

ヤン

ドッ

!

これ…
トーチの記憶？

ほし…ほし

く！
く！

あ…あ…あ…

何…してるの？

ちようだい
ちようだい

いや…
気持ち悪い…

もじと…

主人さまの

もじと…

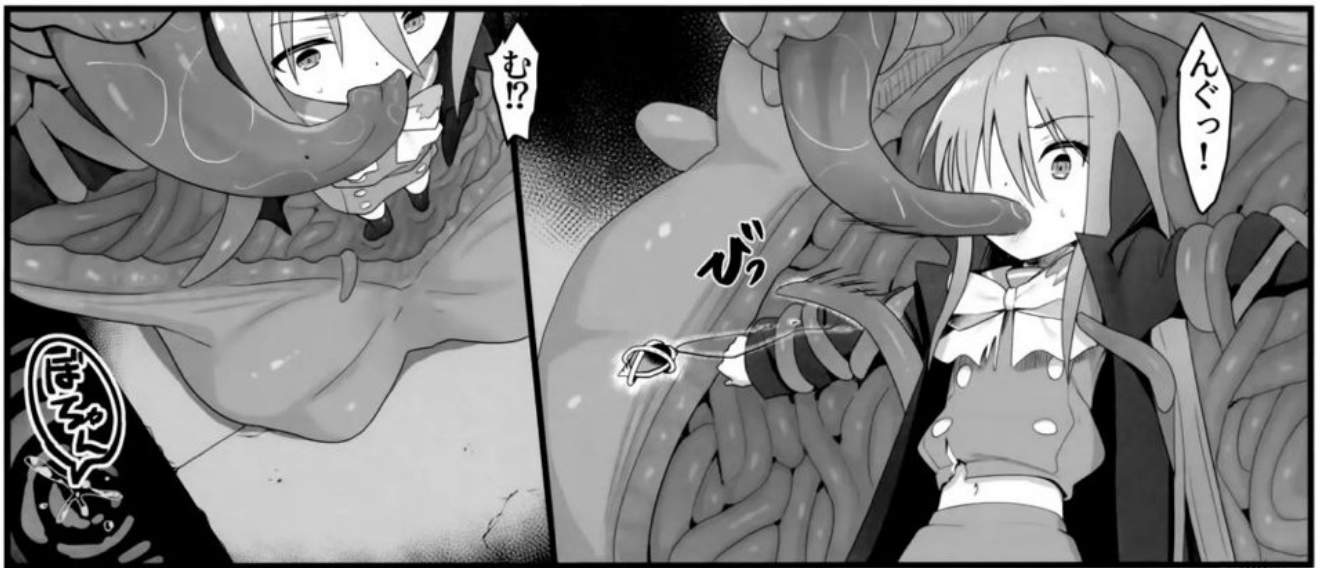
だめ！

?!

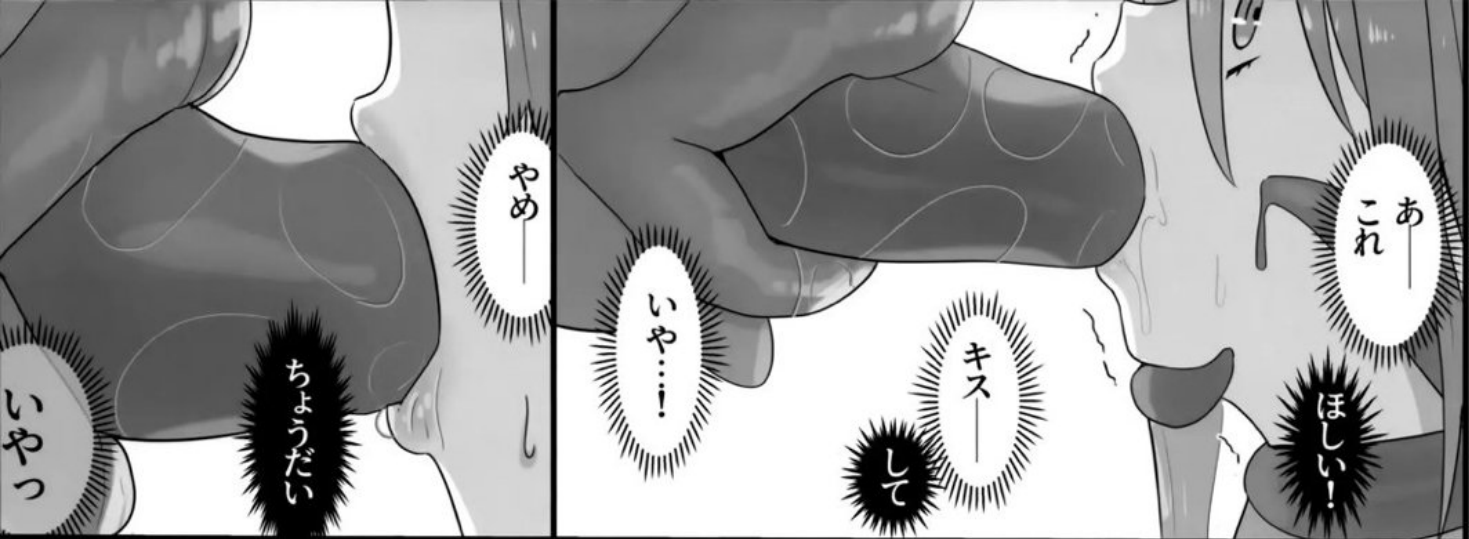
それはダメ！
イヤ

シャナ!!!









あー
これ

ほしい!

キス

して

いや...

やめ

ちようだい

ちようだい



何?!

せみ

血...
じゃない

むぎ



んごう

びり



嫌!!

ガッ



と

くお

げま

かは



無理やり
奥まで流し込んで...

ぐんぐん

んっ!

せみ

せみ

せみ

んごう

だめ

吐き出し切れな



グウ
グウ

ビクッ

一体何を
ひゃっ



ひどい臭い

べとべととして
喉に絡まって…

ガ
マ

ガ
マ



!!

セ



ゾク

…?

ビクッ

ギク



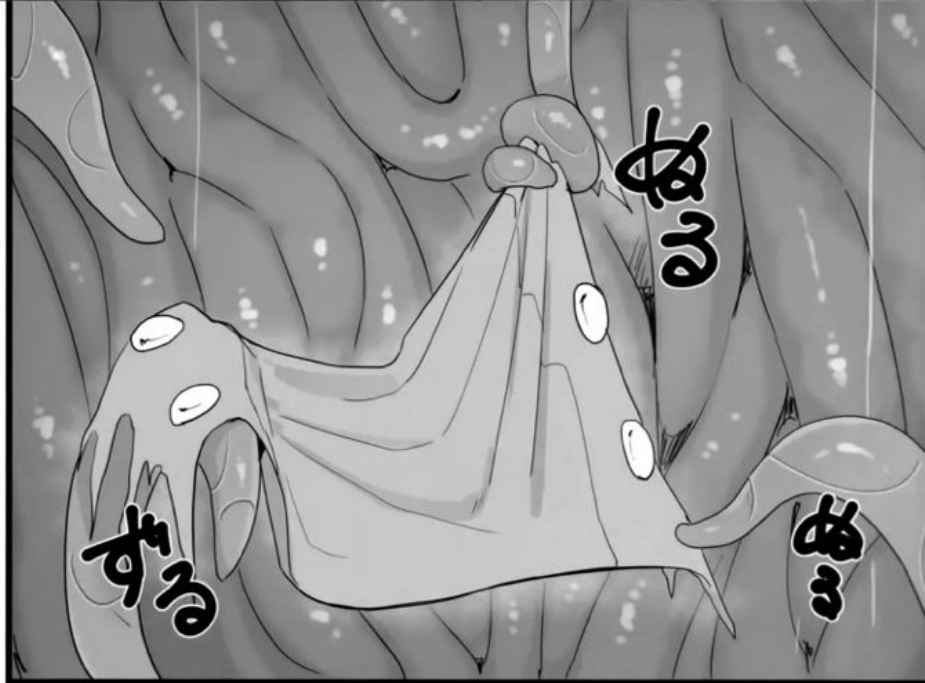
ズ

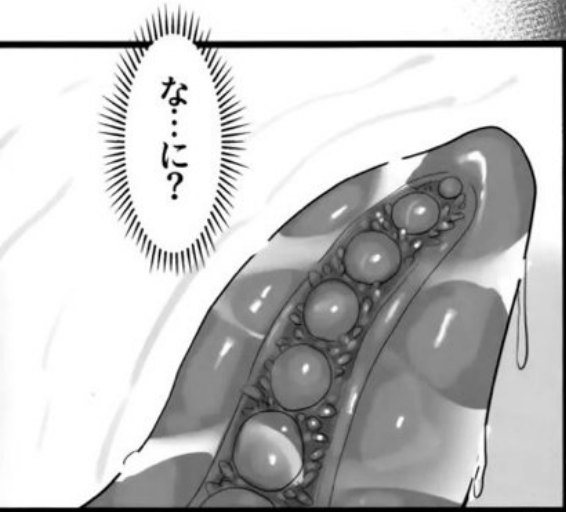
あ?



な
カ
マ









……？



一体何の意
味が



ぬるぬるして
気持ち悪い



おか……しっ！



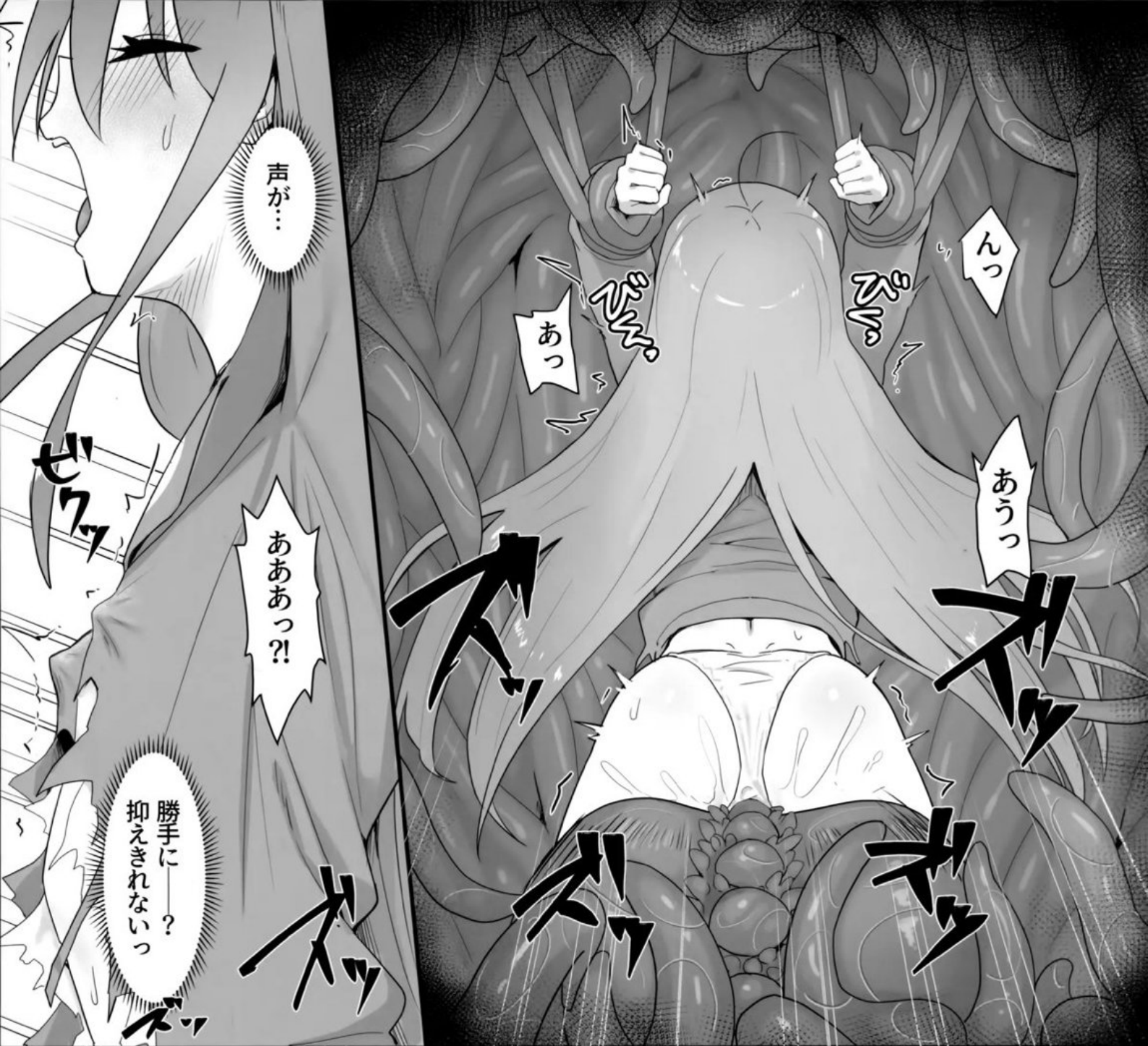
なにを

何……か



ずるずるずる





声が…

あああっ?!

勝手に…?
抑えきれないっ

んっ

あっ

あうっ

ズッ

ズッ

ズッ



あんっ

びびび

びびび



んっ

んっ



ああっ?!

め

やっ

あつ

ズッ

ズッ



ズッ

ズッ

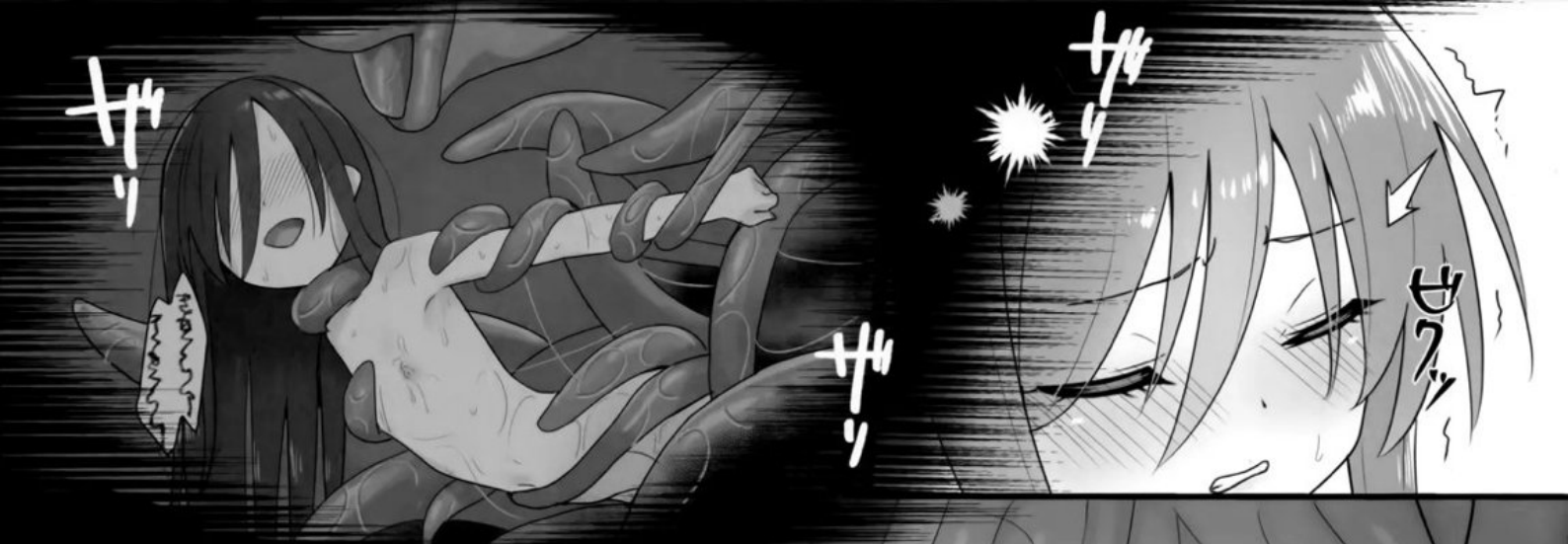
ズッ

ズッ

おかしなことを
するな!!

ズッ

ズッ





あああああ

あっ

ああ

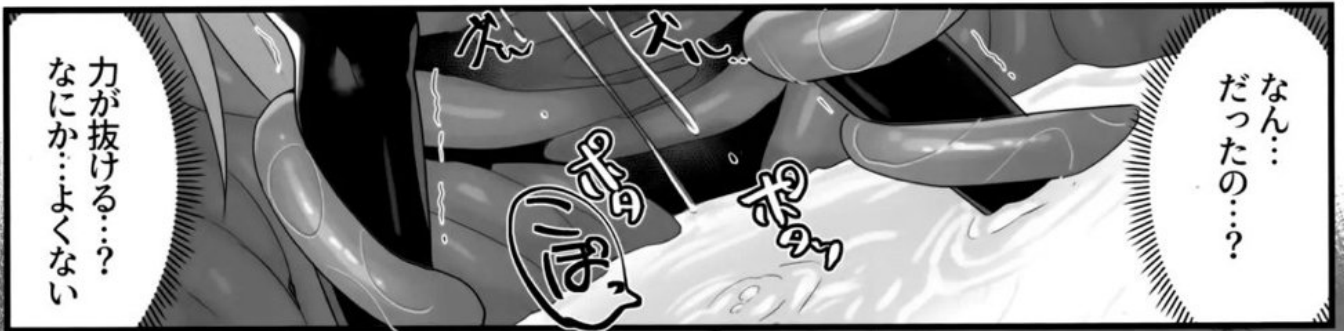
んんんんん

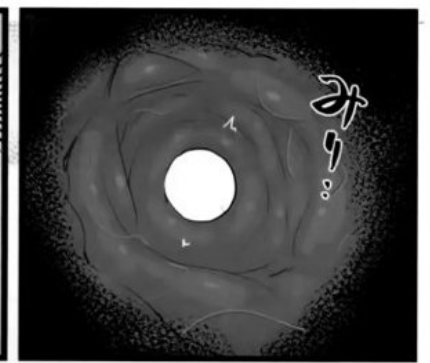
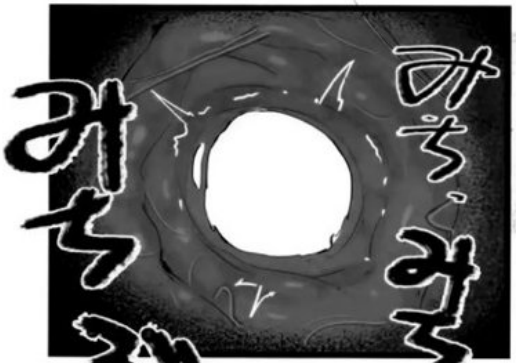
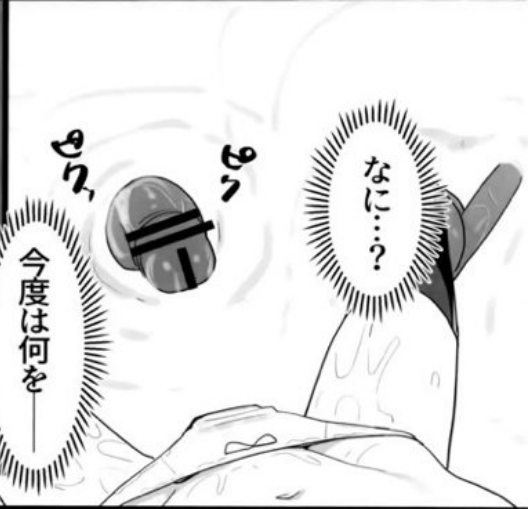
ずんずんずん

ずんずん

ずん

んん







ギョッ
あっ

ギョッ

あ

あっ

かっ

あぁあっ?!

ぎゅん

ぎゅん

あぁあっ?!

ぎゅんぎゅんぎゅん





ちょうだい

ご主人さまの
精液

や

め

て

グッ

グッ

グッ

おおおお！！

はなせ！

こいつの目的は
子どもを産ませること…？！

ん…

ん

ん

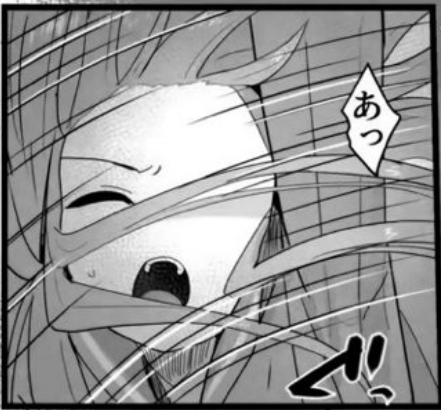
ん

ん





こんなことをする
徒がいるなんて——っ





ギッ

ああっ?!

ずいぶっ



ギッ

んっ

ギッ

ましてやフレイムヘイズ
となんて
私

ギッ

あ

——ッ
徒と人間じゃ
んっ

ずいぶ

子どもは作れないっ

ずいぶ

ふっ



しても意味ないっ

私が知らないだけ?

んんっ

ふっ
できない...はず
違うの?

ズッ

ズッ

ズッ

だからっ

あっ

こんなこと



ち...がう...

や...や...

や...や...

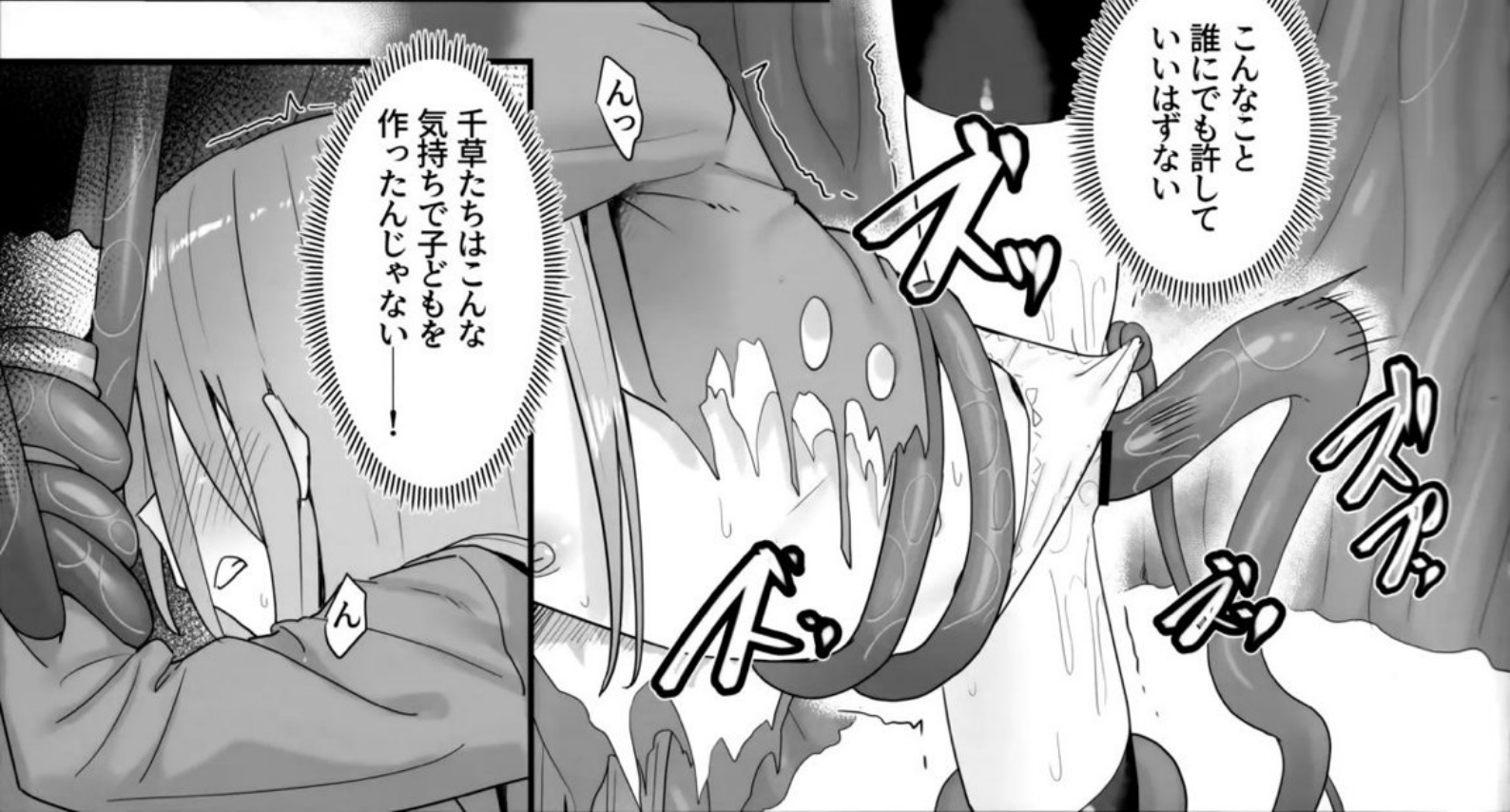


それとも違う目的が

ああっ?!

ビクッ

.....



千草たちはこんな
気持ちで子どもを
作ったんじゃない!

んんっ

こんなこと
誰にでも許して
いいはずない

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



嫌だ...

さあ...

いやああああ!!

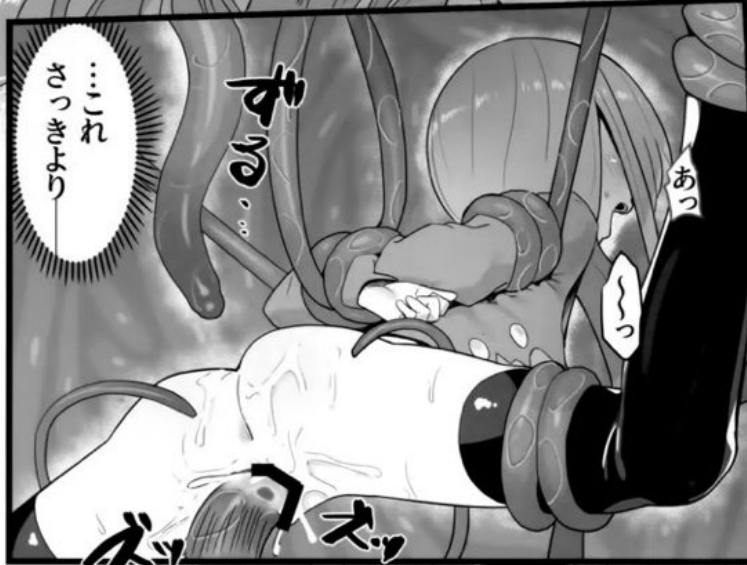
びんや



さあ...









ああッッッ

ああッッッ

かっつは

な...
なんて...

あッッッ

ちが... そっちは

ぐっ





やめっ

やめっ

まげっ

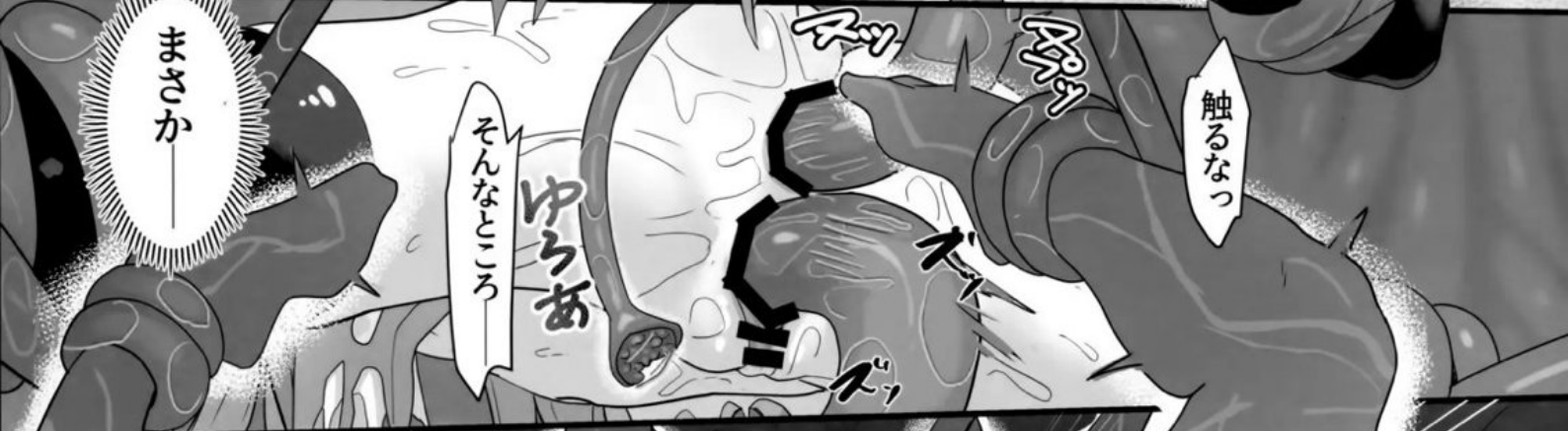
あっ

まさか...

あっ

せー

せー



まさか

そんなところ

ゆるあ

触るなっ

アッ

アッ

アッ

アッ



アッ

アッ

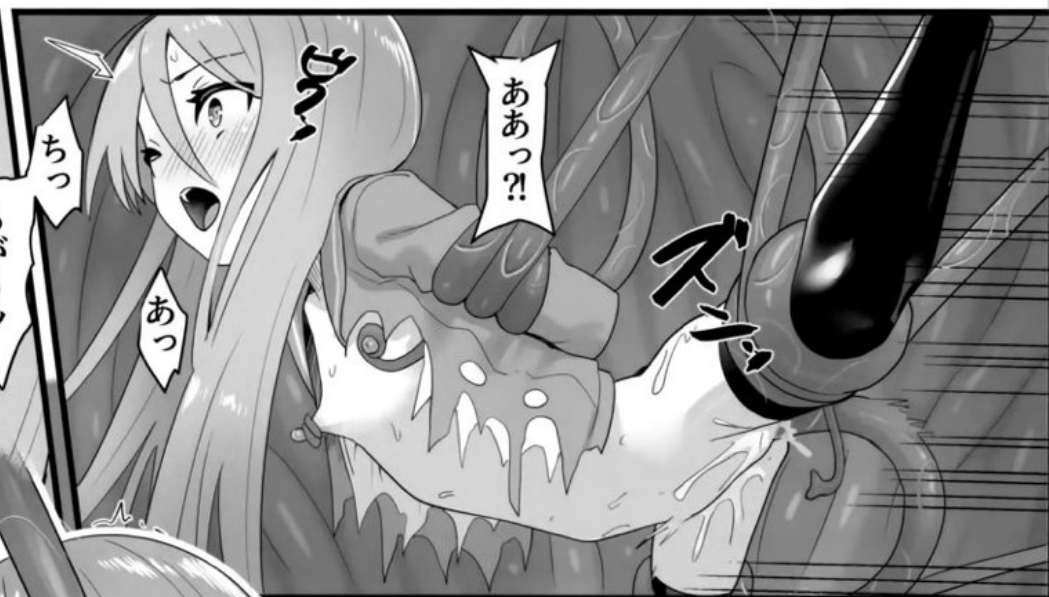
アッ

まさか...

アッ

アッ







嫌

ギョッ

ギョッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ

んっ

ギョッ

ギョッ
ギョッ



んっ...お...



んっ?!

んっ
んっ
んっ
んっ

んっ...

んっ
んっ

んっ
んっ

こんなこと知らない

知りたくない

こんなので
気持ちよく
なりたくない！

ズキ
ズキ
ズキ

ズキ
ズキ
ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ
ズキ
ズキ
ズキ
ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ





んあ、

ブルブル

ブルブル

ES

あ、

あ

あああああ
んあ

あ

あ

あ

あ

あ



悠...

To be continued...

設定メモ という名の 言い訳

基礎知識

紅世の徒

この世の"歩いて行けない隣"にある異世界、《紅世》の住民。こちらの世界で異能力を発揮したり、姿を顕し続けたりするためには《存在の力》が必要であり、そのために人間を喰らう。とりわけ強力な徒は"王"と呼ばれる。

自在法

異能力全般。それらは個々の能力やイメージで行使されるが、それらを体系化し、誰でも使えるようになった自在法もある。また、一定の様式で記述したものを自在式と呼ぶ。『封絶』は特に多くが用いる自在法で、いわゆる結界。異能者以外は静止した状態になるが、"ミステス"は動くことができる者もいる。

フレイムヘイズ

徒がこの世で存在の力を喰らうことで両界のバランスが崩れることを危惧した王が人間と契約し、その身に自身を宿させた存在。王とフレイムヘイズは不可分であり、コキュートスを始めとした交信器はあくまで受話器のようなものであるため、切り離しても普通は自由に呼び戻せる(再構築できる?)。

トーチ

存在の力を喰われた人間は、それまでこの世で関わってきた証拠を失い、初めから文字通り『存在しなかった』ことになる(写真から姿が消えるなど)。この歪みをフレイムヘイズは感じ取ることができ、彼らの追跡を遅らせるため代替存在として残されるのが《トーチ》である。トーチは緩やかに消耗しながら周囲との関わりを失っていく。

宝具

人間と徒が同じ望みを強く抱いたときに生まれる異能を宿した器物。宝具を宿したトーチは"ミステス"と呼ばれる。生成手順を鑑みるに結果は望みどおりでもその過程まで思い通りに作れるわけではない気がする。

達意の言について

翻訳こんにやく的な自在法。聞く話す両対応しており、辞書的な使い方もできるとされる(発声することで意味を訳させる?)。冒頭で徒の発言を聞き取れなかったことで「達意の言を使えない?」と判断しているが、これは達意の言も自在法である以上存在の力を消費するため、平時はお互いに話す方を自分で使うというある種の紳士協定ができていて……と妄想したのだがよく考えたら相手の発話を聞き取れない方がデメリットでは? いずれにせよ達意の言が使えないことが理由ではなく、生まれた油断も徒がトーチを見せたことでシャナたちは「そうではない」と気付いている。

トーチの記憶を強制的に再生する自在法

フレイムヘイズはトーチの存在に割り込むことで周囲に自分をその人だと認識させることができる(シャナは本編では悠二のクラスメイトである「平井ゆかり」に割り込んでいる)。また、割り込んだトーチの『絆』を感じ取って、周囲との関わりをある程度察することができ、自在法に熟達した者であればトーチの記憶を詳細に吸い出すこともできるとされる(『灼眼のシャナ0』より)。

今回の自在法はそれを強制的かつ強力に発露させるもので、かけられたものは記憶の参照中無防備になり、また『絆』も自分のことのように感じる。記憶は残るわけではなく、最初の再生以外は認識できたものを思い出せるだけであり、『絆』も次第に振り切れるようになる。

性行為を快感と受け取れるかどうかは知識的な部分もある気がするので、性知識のないシャナが性感を『気持ちいい』と解釈する誘導をした、と読むこともできる。

フレイムヘイズの能力を封じる自在法

原作では似たようなものに『タルタロス』という宝具が存在しているが、こちらは自在法。『タルタロス』は完全に能力を封じ人間とほぼ同等の存在にする一方交信器は普通に呼び戻せるが、こちらは能力を封じるというより出力を絞るといった趣であり、かつ契約者の"王"との交信は完全に封じる。

ご都合的自在法であり、こんなものが遠方からホイホイ使えたと作中バランスが崩壊するため、『タルタロス』が纏わせる必要があったのと同様『本人に式を掘る』くらいの接触的な関わりが不可欠であり、今回は『自在法を刻んだ何かを飲み込ませる』というプロセスを踏んだ。

「そこまでするなら殺した方が早い」ので誰もやらない類。フレイムヘイズは"王"の側から契約を破棄できる(多分)ため、捕縛することは実質不可能であり、捕縛できない以上は当然研究も進まない、というニーズと手間暇が噛み合わない分野に思われる。そんなものをわざわざ作りそうなのは原作では"教授"くらいであり、どういった経緯でこのような自在法が生まれたのか、という設定を次回以降やPixivで明かしていく予定です。ようは設定を練り込んだのでご都合自在法のご都合部分をどうにかロンダリングできたことにさせてほしい!!!

気配・自在式隠蔽

悠二(零時迷子)の徒感知能は、"聚散の丁"に気付かなかったり、ただしこれは別の存在の反応に紛れた可能性もあったりと、鋭敏なことは確かだがどの程度の物が微妙に曖昧である。

ともあれ今回は徒は存在に気付けないほど十分に弱い、おかしいな? と感じた、という塩梅。

また、自在式の発動にシャナが気付かなかったのは式の展開が早かったのではなく、式が突然現れたため。つまり徒が何らかの高度な隠蔽手段を持っており、存在に気付かなかったのも気配が弱かっただけではなく何らかの偽装を行っていた、という感じ。

あとがき

こんにちは、有魚です。

2年越しようやく2冊目を描くことができました。

前作でシャナの倒し方がわからない等言って先延ばしにしていた導入編でしたがいかがでしたでしょうか。大仰なことを言っていた割には結局ご都合アイテムに頼り倒すことになりましたが、そもそもなぜご都合導入を渋ったかと考えたところ、元作品のパワーバランスが崩壊してしまうのが嫌なのではないかと思ったわけです。そういうわけでご都合アイテムを使うにしても少し迂遠な方法を取る形にしてみました。道具は無条件に制圧できるほど圧倒的ではなく、徒の作戦は緻密なものでもなく、シャナには一人で行かないとか道路を崩壊させてしまおうとかいくらでも違う展開にする選択肢があったし、あるいはシャナ以外の性知識がある面々であれば即座に目的を看破し思い通りにさせないこともできたけれど、今回は色々な状況の積み重ねがたまたま合致してしまった、運悪く目論見通りに進んでしまった——という風に読んでもらえたなら安心です。

シャナと言えばフレイムヘイズとなるために育てられ、学問は高校教師くらいではおおよつかないほどに身に着けている一方、「子どもってどうやって作るの？」と訊いてしまう、教育と知識の偏り、ギャップが我々のなかの樹^{いつき}を刺激したこともあったかと思いますが、実は原作XIV巻ですすがに状況を危惧した保護者組に「生物学的な知識」だけを教わることで一時落ち着いています。

でもこれってようはやり方は知っているけど伴うものを知らないってことなのでは？ それって却ってえっちでは？ というわけで本作の流れです。twitterで完全無知と半無知どっちがいい？ とアンケートも取ったりして余計なハードルを上げるなど的一幕もありましたが、はたして愉しんでもらえたでしょうか。

(なお該当のくだりは原作通りだとターニングポイントになるクリスマス寸前になってしまうため、時系列はフワッとおかんがえください)

このような原作への配慮に欠ける作品ではありますが、『灼眼のシャナ』をまだ読んだことがない方がいらっしゃいましたら、とても面白いので少しでも興味を持って、更に手に取ってなどしていただけたら至上の幸福であります。

本年は後日談まとめの新刊も出ました。読んだか！！ 私も成長して眩しい笑顔を振りまくようになったシャナのクラスメイトになって知らぬ間に居なくなってしまった彼女への自覚するかしないかくらいの淡い恋心を青春期の疵として負いたい。

制作中すぐ挫けたり卑屈になったりする私を温かく支えてくださったフォロワーの皆様、脚本とモザイクチェックに協力してくれた友人に心から感謝申し上げます。次作は来年中になんとか書き上げたい！



発行日：2023/12/30

発行者：有魚／俎上の空欄

pixiv 6289657 twitter _ariu0

Mail: ea1iu0@gmail.com

印刷所：サンライズパブリケーション(株) 様

感想用ほめて箱(ほめなくてもよい)

※本書はフィクションです。実在の人物・団体とは一切関係ありません。

※本書の無断転載・複製・Web上へのアップロードを禁止します。

Any unauthorized reprint, repost, copy and upload is strictly prohibited.



SOJO NO () / 有魚